令和４年　神奈川県議会　第３回定例会　厚生常任委員会

令和４年12月14日

意見発表

西村委員

私は、公明党神奈川県議会議員団を代表し、当委員会に付託された諸議案に賛成の立場から意見発表を行います。

まず、当常任委員会に付託された補正予算について申し上げます。県は、障害児通所支援事業所、認可外保育施設、幼稚園等に通う子供たちの送迎用バスの安全装置の装備など、施設設置者が講じる安全対策の強化に要する費用に対しての補助を計上しました。相次ぐバスの置き去り事故を予防する対策が求められていますが、全国で一斉に設備を進める中で、全てのバスに安全装置の装備ができるか、危惧をされるところです。県には、確実に実施できるよう対応を求めておきます。また、より効果の高い装備やシステムを導入できるよう、施設設置者に最新の情報を提供し、それらの設備を導入できるよう補助額や補助スキームが十分であるかの検討も求めておきます。幾ら装備を充実しても、その扱いが形骸化してしまうと、本来の効力を失うと考えます。責任感を持った担当者によるクロスチェック、ダブルチェックの重要性を改めて現場で確認いただけるような働きかけもお願いいたします。

次に、出産・子育て応援事業費補助について申し上げます。妊産婦への伴走型支援は、我が党が従来より訴え続けてきたものです。現場のニーズに即した支援が実施できるよう、当事者が市町村の意見を吸い上げ、県として、事業実施に向け、しっかりとサポートいただけますよう要望しておきます。

次に、コロナ治療薬について申し上げます。11月22日に、国産で初の経口薬ゾコーバが承認されました。当初は12月上旬の予定であった流通が11月28日に前倒しされ、国は100万人分を確保したと報道されていました。

12月８日、東京大学医科学研究所の研究グループが新型コロナウイルスのオミクロン株の亜種で、変異ウイルスとして注目されているＢＱ．１．１系統とＸＢＢ系統に対する治療効果について、米国医学誌、ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシンで公表しました。その結果、抗体薬の感染阻害効果が著しく低い一方で、抗ウイルス薬は高い効果を示したということでした。ゾコーバは、治験においても体内ウイルスが30分の１を示すなど、家庭内感染の抑制も期待され、マスコミの調査では４人に１人が処方を希望しているともありました。

また、質疑の翌日には、国が追加で100万人分を確保し、都道府県に対し提供医療機関を追加することを認めたとの報道もありました。今後の市販後調査にも注目し、最新情報を収集して、安全、安心、安定の新薬供給を目指されますよう要望します。

また、繰り返しの要望となりますが、県が県民市民に発出している４つの協力のお願いを実現するためにも、抗原検査キットの低廉化、ストック用の解熱鎮痛剤の陽性判明後の弁償制度など、引き続き国に働きかけるとともに、生活困窮世帯への対策についても検討されますよう要望しておきます。

次に、成年後見人制度について申し上げます。今定例会代表質問において、我が会派から、本人の意思を尊重した障害者の権利を守る取組について取り上げ、知事からは、成年後見制度に関わる弁護士や司法書士等の専門職の方々と福祉関係者らで協議会を新設し、障害者の意思決定支援の周知を進めたい旨の答弁がありました。

障害者の意思決定支援の推進は、県、当事者目線の障害福祉推進条例の根幹でもある協議会の発足とその取組から、広く県民に対し、条例や意思決定支援について知っていただけるよう努めることを要望します。

最後に、介護サービス事業者の倒産について、報道を基に質問しました。報道では、介護サービス事業者の倒産が過去最多であり、介護難民が急増するおそれがあるとありました。しかし、質疑では、新たに参入された事業者を加えると、介護事業者の総数が県内で増加していることが分かりました。もちろん、コロナ禍での利用者の減少や物価高騰の影響など、様々な懸念事項が存在します。今後も現場の声を聞き、丁寧に対応されますよう要望します。

以上、意見、要望を申し上げ、当委員会に付託された諸議案に賛成して意見発表を終わります。